



私の思い出の症例・研究裏話

～大学4年生、病理との邂逅～

清水 孝規 産科婦人科

初めまして。この度リレーエッセイを担当させていただくことになりました東北大学医学部産科学婦人科学教室の清水 孝規と申します。現在は博士課程の2年目として東北大学大学院医学系研究科情報遺伝学分野に所属し、教室の先生方のご協力のおかげで研究に専念する日々を送っています。

執筆の依頼をいただき改めて本大学卒業後から振り返るといつの間にか長い年月が経過していた事に驚かされます。私の医師のキャリアは、東日本大震災後2年目の石巻赤十字病院からスタートしました。当時は、まだ震災の爪痕が色濃く残り、一度破綻した地域システムの中で多くの患者様と医療スタッフ自身もそれぞれの葛藤を抱いていました。医療資源的にも石巻市立病院が被災し医療機能が停止している中で断らない救急をモットーに広い医療圏を担い、数多くの症例に触れることができ医師としての根幹を形成することができたと考えます。比較的ハードな研修生活ではありましたが、震災で有名になったことで全国各地の大学から研修医が集まったことは大きな刺激となりました。また、年数が経つと研修病院については記憶が薄れていくのが通例ですが、当時のオーベンの先生方がネットニュースを沸かせることもしばしばありその度に当時の鮮明な記憶が蘇り改めて密度の濃い時間を過ごしていたことに気がつきます。

私の思い出の症例は、初期研修を終了し産科婦人科医としてキャリアをスタートした時に経験したリポ蛋白リパーゼ (lipoprotein lipase : LPL) による脂質

異常症を背景に発症した重症急性膵炎妊婦の一例です。当科において妊娠に伴う急性膵炎は0.02～0.03%と稀ではありますが、重症化すると母児ともに重篤な転帰をたどる例が多いとされます。母体死亡率10～20%、胎児死亡率30%と高率であるという報告もあり、迅速な診断及び早期の治療開始が重要である疾患であります。

症例は、33歳、妊娠38週時に持続性の腹部痛を主訴に搬送。血液、画像検査にて急性膵炎に起因する急性腹痛と診断、同日緊急帝王切開術を施行しました。当時の血液検査では炎症反応、血清アミラーゼ値の上昇、高度の脂質異常 (TG : 7995ml/dl) を認めました。またPT-INR、APTTをはじめとした凝固系は血漿、血清成分共に白濁が著明で測定不能であり、帝王切開術中に乳糜様の腹水貯留と、子宮切開創からも通常の鮮血とは異なる乳糜様に混濁した白色の血液を認めとても印象に残っています。その後急性膵炎に対する集約的治療を開始し、その一環としてLDL吸着療法を併用し、最終的には病状の改善が得られました。退院後も脂質異常が遷延したため高次医療機関にて精査した結果、LPL欠損症の診断に至り脂質異常症を背景に発症した急性膵炎と考えられました。一度経験すると忘れない症例ではありましたが初回での診断は困難な症例ではありましたが。

また、症例ではありませんが2016年4月16日に発生した熊本地震に医療支援として派遣されたことは大きな経験となりました。発生当時は石巻赤十字

病院で後期研修中でした。日本赤十字社は災害救助法に基づく「災害救助に関する厚生省と日本赤十字社との協定」を締結しているため、有事には救護班の派遣が要請されます。東日本大震災時は学生であったため大きな貢献はできませんでしたが熊本地震の時は医療者として被災地に赴き、全国から派遣されたスタッフとコミュニケーションを取りながら治療にあたりました。自身の生活も制限されている中ではありましたが改めて医師としての自覚を持つことができました。

その後、多くの先生方のご指導を受け紆余曲折ありましたが産科婦人科専門医を取得し現在に至ります。冒頭にもお話ししましたが現在は研究に追われる日々を送っています。研究内容は、ヒト胎盤幹細胞 (Trophoblastic stem cell : TS細胞) を用いた胎盤の機能解析を行っています。このTS細胞は2017年に当研究室からの研究成果として発表されたもので、

細胞性トロフォブラストよりヒトTS細胞を樹立することに世界で初めて成功しました。ヒトTS細胞は5ヵ月以上に渡って培養でき、長期培養後も、ホルモン分泌や栄養・ガス交換に働く合体体トロフォブラストや、子宮内で母体の血管の再構築を行う絨毛外トロフォブラストといった細胞へ分化する能力を持ちます。従来倫理的な問題や検体で制限の多かったヒト胎盤の機能解析や疾患を解析するツールとして多くの可能性を秘めている細胞です。数年前までの自分ではこのような研究には携わるとは全く想像しておらず、学生時代も研究とはあまり縁がない生活を送っていたため戸惑うことが多く悪戦苦闘の日々を過ごしています。ただ、初心を忘れずまずは一歩一歩前に進んでいきたいと思えます。

以上をもって私のリレーエッセイとさせていただきます。貴重なお時間を割き、最後までご高覧いただきまして有難うございました。